HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン: 9.50
Windows®、Linux®オペレーティングシステム

主要テーブル

ドキュメントリリース日 : 2015年 3月
ソフトウェアリリース日 : 2015年 3月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1994 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

Microsoft ® およびWindows ® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX ® は、The Open Groupの登録商標です。

この製品には、'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインタフェースが含まれています。Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。
https://softwaresupport.hp.com

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。**https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do**

または、HP Passportのログインページの［**New users - please register**］リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。**https://softwaresupport.hp.com**

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは **http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp** です。

目次

第1章: 部署と従業員 6
部署と従業員の構成 6
Asset Managerユーザ 7
Asset Manager管理者 7
部署と従業員を作成する 8
従業員の研修 8
委任を作成する 9
Asset Managerユーザにアクセス条件を関連付ける 10
従業員グループ 10
従業員の場所が変わった場合 11
従業員の部署が変わった場合 11

第2章: 場所 12
場所の定義 12
場所のフロアプラン 12
ポートフォリオ品目の場所 12
場所に関連する税金 12

第3章: 会社 13
会社の定義 13
会社の連絡先 13
会社と締結した契約 13
会社のカタログ 13

第4章: フロアプラン 15
フロアプランの定義 15
フロアプランを作成する 15
フロアプラン内のオブジェクトの詳細情報を表示する 16
フロアプランを使用する 16

第5章: 任意管理項目 18
任意管理項目の定義 18
任意管理項目の説明 18
任意管理項目の合計 19
任意管理項目のパラメータ 20

任意管理項目クラス 21
任意管理項目を管理する 22
任意管理項目を継承する 24
任意管理項目の継承例 26
別のテーブルからレコードを選択して任意管理項目値を入力する 29
フィールド内の任意管理項目の変換 32

第6章: レコードに関連付けられたドキュメント 37
ドキュメントの定義 37
レコードに関連するドキュメントの管理 37
アクションを使ってドキュメントを開く 40

第7章: バーコードによる棚卸 42
概要 42
バーコードフォントのインストール 42
バーコードカタログに含めるレコードの識別 43
バーコードカタログの生成 44
用語解説 44
CODE-39仕様 45

第8章: IDの生成 50
概要 50
ID生成に使用されるテーブル 50
ID生成の機構 51

ドキュメントのフィードバックの送信 52

第1章: 部署と従業員

- 部署と従業員の構成 6
- Asset Managerユーザ 7
- Asset Manager管理者 7
- 部署と従業員を作成する 8
- 従業員の研修 8
- 委任を作成する 9
- Asset Managerユーザにアクセス条件を関連付ける 10
- 従業員グループ 10
- 従業員の場所が変わった場合 11
- 従業員の部署が変わった場合 11

部署と従業員の構成

部署と従業員は同じ画面で作成および管理されます。

Asset Managerアプリケーションでは、部署と従業員のリストを階層構造で構成します。部署には従属部署が含まれることがあります。部署には従業員が含まれますが、従業員の下に別の従業員は含まれません。

部署と従業員を構造化する

部署と従業員リストを編成する最善の方法は：

1. 会社の部署の階層を作成し、
2. それぞれの部署に従業員を割り当てます。
   従って、従業員は階層の末端に属します。

注: 階層のすべてのレベルを表示するには、部署と従業員のリストを右クリックし、状況依存メニューから **[階層の表示 / 全レベル]** を選択します。

Asset Managerでは、従業員に以下のような役割を割り当てることができます。

- 資産のユーザまたは責任者
- 資産ビューの作成者
- 在庫の責任者
- プロジェクトの責任者

- 作業指示の依頼者または技術者
- 予算の責任者
- 契約の責任者

部署と従業員の表示

部署と従業員に関する情報を表示するには非階層表示と階層表示の2つの方法があります。これらのビューはアプリケーションの標準ビューです。

画面上のフィールドに応じて、部署と従業員を表示することができます。

例えば、従業員を役職別などで表示することができます。これは、従業員を役職という条件でグループ分けすることと同じです。

従業員の職務ごとにグループ分けするには：

1. ［部署と従業員］画面を表示します。
2. **［役職］**フィールドを右クリックします。
3. 状況依存メニューから、**［このフィールドでグループ分け］**を選択します。
   部署と従業員のリストは**［役職］**の条件に従ってフィルタ処理されます。タイトルはそれぞれ階層レベルで表され、グレー表示されます。各タイトルの下には同じタイトルの従業員がリストされます。

Asset Managerユーザ

データベースへのアクセスを保護するために、Asset Managerのデータベース内でAsset Managerのユーザとして定義されている人のみが、データベースを開くことができます。

複数のユーザが同時に同じデータベース上で作業できます。

Asset Managerのユーザは、部署と従業員のリスト内にプロファイルと共にレコードとして記録されています。管理者が**［ユーザ名］**（SQL名：UserLogin）と**［パスワード］**（SQL名：LoginPassword）をユーザに割り当てます。

Asset Manager管理者

Asset Manager管理者は、Asset Managerデータベースのすべてのテーブルに対してすべての権限を有するユーザです。

複数の管理者がいる場合もあります。複数の管理者を作成するには、1人の管理者が他のユーザに管理者のプロファイルを詳細画面で割り当てます。

Adminログインレコード

部署と従業員テーブルには「Admin」と呼ばれるデフォルトの管理者**［ユーザ名］**のレコードがあり

ます。

- Asset Managerをインストールした直後は、このログイン名でしか管理者としてAsset Managerデータベースにアクセスできません。
- このログイン名は、他の名前でデータベースにアクセスできない場合に使うことができます。セキュリティ上の理由により、このレコードは削除できません。
- 「Admin」ログインのアクセスタイプは「特定」ユーザですが、許可された特定ユーザのライセンス数としてはカウントされません。
- 「Admin」ログインは、接続状況画面（**[管理 / 接続 / 接続スロット]** メニュー）の **[削除]** ボタンを使って接続スロットを削除できる唯一の管理者ログインです。

部署と従業員を作成する

1. ナビゲーションバーの **[組織管理 / 組織 / 部署と従業員]** リンクを選択します。
2. 高速検索を使用しないでください（ウィンドウが自動的に表示されるので **[キャンセル]** を押してください）。
3. **[新規作成]** をクリックします。

注: 部署および従業員の詳細画面に表示される基本情報（フィールドとタブ）は、一部異なります。

従業員の研修

[研修] タブページには、従業員が参加した研修プログラムのリストが表示されます。

Windowsクライアント

- 研修プログラムを追加または削除するには、リストの右側にある ボタンと ボタンを使います。
- ボタンをクリックすると、研修プログラムの詳細を表示または変更できます。

注: 資産と同様、研修にもバーコードラベルが付いています。デフォルトでは、このラベルはAsset Managerカウンタを使うスクリプトによって定義されます。スクリプトを変更して、バーコードの付け方を変更することもできます。

Webクライアント

- 研修プログラムを追加または削除するには、 **[追加]** または **[削除]** ボタンを使います。
- プログラムの詳細を表示するには、その研修レコードをクリックします。

委任を作成する

委任によって、ユーザは特定のユーザ（委任する従業員）から別のユーザ（委任される従業員）にタスクの割り当てを転送します。ユーザは定められた期間または未定の期間の間にこの処理を行います。

従業員Aから従業員Bへの委任を作成して有効にすると、従業員Aや従業員Aが属すグループに割り当てられているすべてのワークフロータスクが、従業員Aと従業員Bにも送信されます。

委任を作成するには：

1. 従業員のリストを表示します（ナビゲーションバーの**［組織管理 / 組織 / 部署と従業員］**リンク）。
2. 委任を作成する従業員（従業員A）の詳細を表示します。
3. **［委任］**ボタンをクリックするか（Windowsクライアント）、**［アクション...］**ドロップダウンリストから**［委任］**を選択します（Webクライアント）。
4. 次に、**［委任を作成/変更...］**（sysCoreDelegation）ウィザードを入力します。
5. **［委任をアクティブにする］**オプションを有効にします。
6. これにより、委任テーブル（amDelegation）に委任が作成されます。
7. 以下の画面で、委任を表示できます。
   - 従業員Aの詳細画面の**［委任］**タブ、**［許可された委任のリスト］**サブタブ。
   - 従業員Bの詳細画面の**［委任］**タブ、**［受理した委任のリスト］**サブタブ。

注: 終了日（dtEndDeleg）が指定されていない場合、委任は無期限とみなされます。

注: 委任を有効にするには、委任の詳細ページにある**［有効］**（bActive）ボックスをチェックします。

このオプションを使用することで、委任を削除したり終了日を変更することなく、委任を一時的に無効にできます。

注意: 委任作成時にはプロファイルや承認の権限は移管されません。このため委任を受理した従業員は、委任により移管されたタスクを受理、または却下するのに、委任を付与した従業員と同じ承認の権限を得る必要があります。

Asset Managerユーザにアクセス条件を関連付ける

Asset Managerユーザにアクセス条件を割り当てるには、『**管理**』ガイドの、**「データベースへのアクセスコントロール」**の章、**「Asset Managerユーザにアクセス条件を関連付ける」**のセクションを参照してください。

従業員グループ

従業員グループを作成するには、**［組織管理 / 処理 / 従業員グループ］**ナビゲーションメニューを選択します。

従業員グループはソフトウェアのいくつかの領域で使用されます。

例：

- **［タイプ］**（SQL名：seType）が**［内部メンテナンス］**の作業指示の担当者
- ワークフロー業務の担当者

従業員グループは、SQL名「amEmplGroup」のテーブルに保存されます。このテーブルは階層構造になっています。

従業員グループを作成するには：

1. **［組織管理 / 処理 / 従業員グループ］**メニューを選択します（Windowsクライアント）。
2. **［新規作成］**をクリックします。
3. 従業員グループの名前を入力します。
4. 必要に応じて、親グループを入力します。
5. グループの責任者を指定します。
6. **［明細］**タブで、グループのメンバを指定します。
7. **［場所］**タブで、グループに関連する場所を指定します。
8. **［契約］**タブで、グループに関連する契約を指定します。
9. **［専門分野］**タブで、グループが処理解決できる問題タイプを指定します。

注: 従業員と同様、従業員グループにもバーコードラベルが付いています。デフォルトでは、このラベルはAsset Managerカウンタを使うスクリプトによって定義されます。スクリプトを変更して、バーコードの付け方を変更することもできます。

従業員の場所が変わった場合

1. 場所のリストを表示します（ナビゲーションバーの**［組織管理 / 組織 / 場所］**リンク）。
2. 新しい場所を作成します。
3. 部署と従業員のリストを表示します（ナビゲーションバーの**［組織管理 / 組織 / 部署と従業員］**リンク）。
4. 新しい勤務地に移動するすべての従業員を同時に選択します。
5. 従業員の詳細画面の**［全般］**タブページで、新しい場所を選択します。
6. **［変更］**ボタンをクリックします。
7. ポートフォリオ品目のリストを表示します（ナビゲーションバーの**［資産ライフサイクル / インフラストラクチャ管理 / ポートフォリオ品目］**リンク）。
8. 新しい場所に移動するすべてのポートフォリオ品目を同時に選択します。
9. ポートフォリオ品目の詳細画面の**［全般］**タブページで、新しい設置場所を選択します。
10. **［変更］**ボタンをクリックします。

レコードをエクスポートして、別のプログラムでデータを変更してから、もう一度Asset Managerにレコードをインポートする方法もあります。この方法は複雑ですが、よりフレキシブルに処理できます。

従業員の部署が変わった場合

1. 部署と従業員のリストを表示します。
2. 所属部署が変わる従業員の詳細を表示します。
3. **［部署］**（SQL名：Parent）フィールドで、従業員の新しい部署を選択します。
4. 必要に応じて、**［全般］**タブページの**［場所］（SQL名：Location）**、**［電話番号］（SQL名：Phone）**、**［ファックス］（SQL名：Fax）**、**［電子メール］（SQL名：EMail）**、および**［ファイナンス］**タブの**［コストセンタ］（SQL名：CostCenter）**フィールドを変更します。
5. 必要に応じて、従業員が使用するポートフォリオ品目の詳細画面の**［全般］**タブページで、**［設置場所］**（SQL名：Location）、**［責任者］**（SQL名：Supervisor）と**［コストセンタ］**（SQL名：CostCenter）フィールドを変更します。これを行うには：
   - 従業員の詳細画面の**［ポートフォリオ］**タブページで各ポートフォリオ品目の詳細画面を1つずつ表示し、該当するフィールドを変更します。
   - またはポートフォリオ品目のリストを表示し、部署を変更するユーザの名前を選択して、**［ユーザ］**（SQL名：User）リンクにフィルタを適用します。検索されたユーザのポートフォリオ品目を複数選択して、フィールドを同時に変更できます。

第2章: 場所

- 場所の定義 12
- 場所のフロアプラン 12
- ポートフォリオ品目の場所 12
- 場所に関連する税金 12

場所の定義

会社の所在地の情報は、別の階層構造のテーブルで管理します。場所のテーブルでは資産や在庫の物理的な場所や、作業指示の場所などを指定できます。

場所のフロアプラン

[フロアプラン] タブページでは、プランのリストからフロアプランを選択できます。場所は、アイコンで表示される従業員や資産の配属先をグラフィックで図解します。

ポートフォリオ品目の場所

特定の場所に設置されている全ポートフォリオ品目のリストを表示するには、場所の詳細画面の **[ポートフォリオ]** タブページを選択します。

リストにポートフォリオ品目を追加したり、リストからポートフォリオ品目を削除したりするには、リストの右側にある ボタンと ボタンを使います。 ボタンをクリックすると、ポートフォリオ品目の詳細を表示または変更できます。

場所にポートフォリオ品目を追加すると、そのポートフォリオ品目は前の場所から自動的に削除されます。場所からポートフォリオ品目を切り離すと、そのポートフォリオ品目と場所のリンクは失われます。

場所に関連する税金

税区分を使って、税金と場所を関連付けることができます。税金と場所を関連付けるには、場所の詳細画面の **[全般]** タブページにある **[税区分]** （SQL名：TaxJuris）リンクに値を指定します。

第3章: 会社

- 会社の定義 13
- 会社の連絡先 13
- 会社と締結した契約 13
- 会社のカタログ 13

会社の定義

Asset Managerでは、自社系列以外の会社の詳細とその連絡先を専用のテーブルで指定します。このテーブルに自分の会社の子会社または支社を含めるべきではありません。

データベースでは、会社は、契約に関わる業者、メンテナンス業者、サプライヤ業者などとして表れます。

会社の連絡先

会社の詳細画面の**［連絡先］**タブページには、サブタブページごとにサプライヤの連絡先リストが含まれています。

連絡先を追加、複製、または削除するには、サブタブページ上で右クリックして、ショートカットメニューから**［リンクレコードの追加］**または**［リンクの削除］**を選択します。

連絡先の完全なリストには、**［管理 / 画面一覧］**メニューからのみアクセスできます。

会社と締結した契約

会社の詳細画面の**［契約］**タブページには、この会社と締結した契約書のリストが表示されます。

契約を追加または削除するには、リストの右側にある ボタンと ボタンを使います。

リスト内の契約の詳細は、 ボタンをクリックして表示または変更できます。

会社のカタログ

会社の詳細画面の**［カタログ］**タブページには、会社のカタログが表示されます。

取得条件を追加および削除するには、リストの右側にある ボタンと ボタンを使います。

既存の取得条件を表示または変更するには、 ボタンをクリックします。

第4章: フロアプラン

- フロアプランの定義 15
- フロアプランを作成する 15
- フロアプラン内のオブジェクトの詳細情報を表示する 16
- フロアプランを使用する 16

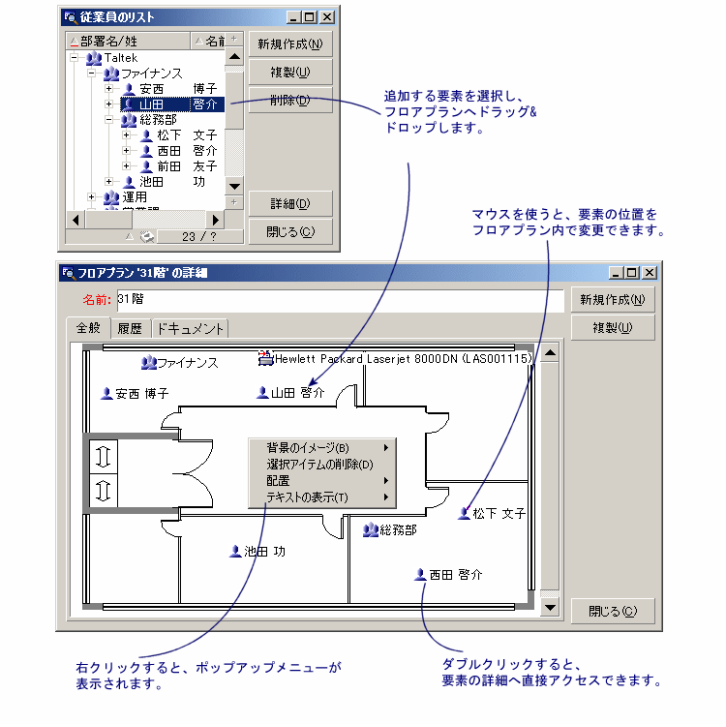
フロアプランの定義

フロアプランでは、テーブルのレコードをグラフィックとして配置できます。すべてのテーブル、特に場所、従業員、および資産のテーブルを使用できます。

フロアプランを作成する

フロアプランを定義するには、以下に説明されているショートカットメニューを使います。

フロアプランの詳細画面



［フロアプラン / 背景のイメージ］メニュー

- **［貼り付け］**メニューを使うと、背景にイメージを貼り付けることができます。
- **［削除］**メニューを使うと、背景のイメージを削除できます。
- **［サイズ変更］**メニューを使うと、背景のイメージのサイズを変更できます。変更するには、マウスでイメージのハンドルをドラッグします。
- **［インポート］**メニューを使うと、背景に画像ファイルをインポートできます。

配置

複数のアイコンの位置をフロアプラン内で揃えることができます。［Shift］キーまたは［Ctrl］キーを押しながら項目を選択するか、またはマウスでドラッグして項目を囲んで選択します。

テキストの表示

フロアプラン内に、レコードのアイコンを説明するテキストを配置することができます。

フロアプランにオブジェクトを追加する

他のリストからレコードをドラッグ&ドロップして、レコードをフロアプランに追加します。

これを行うには、リストでレコードを追加するか、レコードの詳細画面でアイコンを選択します。

フロアプランにオブジェクトのアイコンとテキストが追加されます。

マウスを使って、レコードをフロアプラン内で移動できます。

フロアプラン内のオブジェクトの詳細情報を表示する

フロアプラン内に配置されているアイコンの詳細情報を表示するには、アイコンをダブルクリックします。

フロアプランを使用する

フロアプランの中にさらに別のフロアプランを作成して、より詳細なフロアプランを作成できます。

例えば、都道府県/支社/ビル/フロア/オフィスなど、場所のツリー構造を作成するには、次の手順に従います。

1. 国、支社、ビル、階、およびオフィスなどの各場所に、フロアプランを関連付けます。
   ［組織管理 / 組織 / 場所］メニューで場所のリストを表示します。場所ごとに、**［フロアプラン］**タブページを表示し、その場所に関連付けるフロアプランを選択します。

2. 2つのフロアプランのリストを使用して、支社の各アイコンを都道府県のフロアプランの上にドラッグアンドドロップします。
   まず都道府県のフロアプランの詳細画面を表示します。次に支社の詳細画面を表示し、支社のフロアプランを都道府県のフロアプランの上にドラッグアンドドロップします。
3. 同じ方法で、支社のフロアプランの上にビルのフロアプラン、ビルのフロアプランの上に階のフロアプラン、階のフロアプランの上にオフィスのフロアプランを配置します。
4. 最後に、オフィスのフロアプランの上にユーザと資産を配置します。
   フロアプラン、従業員、および資産のリストを表示します。次に、従業員と資産をオフィスのフロアプランの上にドラッグアンドドロップします。

フロアプランを階層化すると、以下の要素を表示できます。

- フロアプランのリスト（**［組織管理 / 組織 / フロアプラン］**メニュー）または場所の詳細画面の**［フロアプラン］**タブページで、フロアプランを表示できます。
- メインのフロアプラン内に配置されているサブフロアプランのアイコンをダブルクリックすると、サブフロアプランの詳細情報を直接表示できます。
- オフィスのフロアプラン上に配置されている資産とユーザのアイコンをダブルクリックすると、その詳細情報を直接表示できます。

第5章: 任意管理項目

- 任意管理項目の定義 18
- 任意管理項目の説明 18
- 任意管理項目の合計 19
- 任意管理項目のパラメータ 20
- 任意管理項目クラス 21
- 任意管理項目を管理する 22
- 任意管理項目を継承する 24
- 任意管理項目の継承例 26
- 別のテーブルからレコードを選択して任意管理項目値を入力する 29
- フィールド内の任意管理項目の変換 32

任意管理項目の定義

任意管理項目は、Asset Managerのオブジェクト（資産、モデル、発注など）にさらに詳細情報を追加する場合に使用します。追加した定義項目は、値と一緒にオブジェクトにリンクされ、そのオブジェクトの**［任意管理項目］**タブに直接表示されます。

任意管理項目は必要な数だけ作成でき、入力するデータのデータ型（［数値］、［テキスト］など）も指定することができます。これにより、Asset Managerの柔軟性が増し、より広範なカスタマイズが可能になります。

任意管理項目を使うと、自分にとって特に重要な分野（財務、技術などの特定分野）に情報を追加することができます。

任意管理項目を作成すると、データベースのレコードの詳細情報を入力できる「フィールド」が追加されます。例えば、コンピュータのプロセッサの種類やクロック周波数、自動車の馬力などを入力できます。

また、Asset Managerのクエリ言語を使って任意管理項目を参照することもできます。

任意管理項目の説明

任意管理項目を作成するには、まず任意管理項目の特定値を定義し、その処理方法を決定します。

任意管理項目を定義する

任意管理項目の詳細画面の上部では、任意管理項目の識別値と分類（任意管理項目クラス）を定義します。任意管理項目は、固有のSQL名で識別されます。その他のフィールドでは、詳細情報を指定したり、任意管理項目についての説明文を表示できるフィールドのヘルプ（［Shift+F1］キーを押すと表示される状況依存ヘルプ）を作成します。

任意管理項目の処理方法

任意管理項目の処理方法は、次のいくつかの条件によって異なります。

- 入力タイプ。レコードの任意管理項目フィールドに値を入力する時に使うコントロールのタイプが決まります。入力タイプに応じて単位も指定する必要があります。

  注: 「リンク」入力タイプは複雑なので、このマニュアルの別の章で説明します。

- 合計による計算
- パラメータ

任意管理項目の合計

任意管理項目の詳細画面の**［合計］**タブに表示される情報は、任意管理項目を合計するときに使います。このタブページで指定すると、任意管理項目値は、他の任意管理項目の値と合計して計算されます。

任意管理項目の合計は、**［入力］**タブの**［入力タイプ］**（SQL名：seDataType）フィールドが**［数値］**または**［時間］**に設定されている任意管理項目の場合のみ実行できます。

他の任意管理項目の値と合計して任意管理項目の値を計算するには、**［他の任意管理項目値を加えて計算］**（SQL名：bCalculated）チェックボックスをオンにします。計算に加えられる任意管理項目は、このタブページのリストに表示されます。**［作成］**ボタンまたは**［変更］**ボタンをクリックすると、即座に計算が実行されます。

合計する任意管理項目を追加、削除、表示、または変更するには、それぞれ、、ボタンを使います。

追加する任意管理項目は、次の条件を満たしている必要があります。

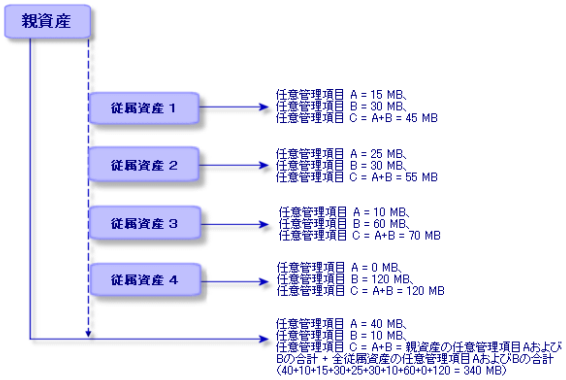
- 合計される任意管理項目と同じ入力タイプ（形式）と単位を使用している。
- 合計時に計算されない。

加える任意管理項目を変更すると、合計値も自動的に再計算されます。

合計計算では、次の点を考慮する必要があります。

- 上記の条件を満たしている任意管理項目だけが計算に使用されます。
- テーブルが階層構造の場合は、子レコードもすべて計算に加えられます。

任意管理項目の合計およびその階層構造



注: 任意管理項目の合計計算に使用する任意管理項目のリストを変更すると、データベースサーバのリソースに重い負担がかかることがあります。これは、その任意管理項目を含むすべてのレコードが再計算されるためです。

『**Tailoring**』ガイドの「**Database options**」の章の「**Database options**」の表を参照してください。

任意管理項目のパラメータ

任意管理項目のパラメータは、任意管理項目の詳細画面の［**パラメータ**］タブページにあります。

任意管理項目を作成した後、パラメータを使って次の内容を指定できます。

- 任意管理項目を使用できるテーブルの名前
- 任意管理項目のデフォルト値
- 任意管理項目に関連するデータの入力および表示の制限

任意管理項目のパラメータを編集する

ボタンまたは ボタンをクリックすると、パラメータの編集および作成画面が表示されます。

パラメータの編集画面は、任意管理項目を作成した後でないと使用できません。

指定したパラメータは、［**テーブル**］（SQL名：TableName）フィールドに定義されているテーブルにリンクします。このフィールドには、Asset Managerのすべてのテーブルを含んでいるシステムリストデータ（値を変更できないリスト）のテーブルを入力します。

注: 1つの任意管理項目に、異なる複数のテーブルのパラメータを指定することができます。

任意管理項目に指定するパラメータには、データ入力の制限、デフォルト値、および個々の任意管理項目の状況依存ヘルプなどがあります。

データ入力の制限

各制限事項で指定できる値は、次のとおりです。

- はい：任意管理項目が関連しているテーブルのすべてのレコードに対して有効になります。
- いいえ：任意管理項目が関連しているテーブルのすべてのレコードに対して無効になります。
- スクリプト：制約の適用は、BASICスクリプトによって決まります。

注: 任意管理項目のパラメータに使用されているBASICスクリプトを編集したり、変更したりすることはできません。

任意管理項目に適用できるデータ入力の制限事項は、次の表のとおりです。

任意管理項目に関する制限事項

制限事項	説明
使用可能	任意管理項目を使用可能にするかどうかを指定します。
デフォルトで表示	任意管理項目をデフォルトで表示するかどうかを指定します。
必須	任意管理項目フィールドへの値の入力を必須にするかどうかを指定します。
履歴	任意管理項目の値の履歴を保存するかどうかを指定します。

デフォルト値

任意管理項目のデフォルト値を定義できます。この機能は、データベースの他のフィールドに提供されている機能と全く同じです。

ヘルプ

データベースの他のフィールドと同様に、任意管理項目に最大3つのセクションで構成される状況依存ヘルプ（フィールドのヘルプ）を定義できます。

任意管理項目クラス

任意管理項目クラスは、任意管理項目を共通のプロパティで分類するときに使います。例えば、「プロセッサLevel1キャッシュ」と「プロセッサLevel2キャッシュ」は、「CPU」という任意管理項目クラスで分類できます。

任意管理項目クラスを編集および作成するには、 **[管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目クラス]** メニューを選択します。

任意管理項目を管理する

ここでは、任意管理項目の管理方法について説明します。

レコードに任意管理項目を追加するには、レコードの詳細画面で**［任意管理項目］**タブに移動します。このタブは左右2つに分かれています。

- タブページの右側には、レコードに関連する任意管理項目の一覧が表示されます。ここで ボタンと ボタンを使って任意管理項目を追加または削除できます。
- タブページの左側には、任意管理項目クラスのツリー構造が表示されます。ここで任意管理項目クラスを選択するとフィルタが適用され、そのクラスに対応する任意管理項目が右側に表示されます。

レコードに任意管理項目を追加できるのは、次のように、レコードを含んでいるテーブルに任意管理項目が適用されている場合、および任意管理項目が使用可能な場合だけです。つまり：

- 任意管理項目の詳細画面の**［パラメータ］**タブページに、選択しているレコードのテーブル名が表示されている。
- **［使用可能］**（SQL名：seAvailable）フィールドの値を［はい］に、またはBASICスクリプトでこのフィールドが［はい］に更新されるように設定されている場合は、［スクリプト］に設定しておく。
- 入力が必須の任意管理項目は削除できないため、追加モード（ ボタンをクリックすると表示される画面）では表示されない。

任意管理項目クラスのツリー構造

［任意管理項目］タブページの左側には、任意管理項目クラスのツリー構造が表示されます。この任意管理項目クラスのフィルタを使って、タブページの右側に表示する任意管理項目を検索できます。

- ツリーの (すべて) ノードを選択すると、タブページの右側にはそのレコードに関連するすべての任意管理項目（継承可能な任意管理項目を除く）が表示されます。
- ツリーの分岐（クラスまたはサブクラス）を選択すると、タブページの右側にはそのクラスまたはサブクラスの任意管理項目が表示されます。

2つのオプションを使って、フィルタを調整できます。

- **［継承可能な任意管理項目付き］**チェックボックスをオンにすると、**［継承目的］**（SQL名：bForInheritance）フィールドが「はい」に設定されている継承可能任意管理項目もタブページの右側に表示されます。
- **［サブクラス付き］**チェックボックスをオンにすると、選択したクラスのサブクラスに関連する任意管理項目もタブページの右側に表示されます。

レコードに関連する任意管理項目

［任意管理項目］タブページの右側では、次の操作を行うことができます。

- レコードに関連する任意管理項目の表示
- 任意管理項目とレコードの関連付け
- レコードから任意管理項目を削除

注: レコードの詳細画面の**［任意管理項目］**タブページは、選択しているレコードのテーブルに使用可能な任意管理項目が少なくとも1つある場合のみ表示されます（任意管理項目がテーブルに添付されており、**［使用可能］**（SQL名：seAvailable）フィールドが［はい］に設定（指定時に直接、またはスクリプトを使って設定）されている場合）。

任意管理項目をレコードに関連付ける

任意管理項目を追加する ボタンをクリックすると、現在のレコードで使用可能な任意管理項目を選択できるウィンドウが開きます。このウィンドウでは、任意管理項目がクラス別にツリー構造で表示されます。このツリーには、使用可能な任意管理項目、つまり**［使用可能］**（SQL名：seAvailable）フィールドが［はい］に設定（指定時に直接、またはスクリプトを使って設定）されている任意管理項目だけが表示されます。

希望の任意管理項目を選択し、**［OK］**ボタンをクリックすると、任意管理項目がレコードに追加されます。

注: この画面では、［Ctrl］キーと［Shift］キーを使って複数の任意管理項目を選択できるため、1度に複数の任意管理項目を追加できます。

継承先のテーブル（ターゲットテーブル）のレコードに任意管理項目を追加すると、次の2つのケースが発生する可能性があります。

- 任意管理項目がソーステーブルにも添付され、ターゲットテーブルにデフォルト値と一緒に継承される。
- 任意管理項目がソーステーブルに添付されない。任意管理項目は継承されずに、デフォルト値はターゲットテーブルの任意管理項目のパラメータで定義されている値になる。

レコードから任意管理項目を削除する

レコードから任意管理項目を削除する ボタンを押すと、レコードに関連する任意管理項目を選択できるウィンドウが開きます。このウィンドウでは、任意管理項目がクラス別にツリー構造で表示されます。

削除する任意管理項目を選択し、**［OK］**ボタンをクリックすると、レコードから任意管理項目が削除されます。

注: この画面では、［Ctrl］キーと［Shift］キーを使って複数の任意管理項目を選択できるため、1度に複数の任意管理項目を削除できます。

必須またはデフォルトで表示される任意管理項目（**［必須］**パラメータ（SQL名：seMandatory）が［はい］に、および**［デフォルトで表示］**パラメータ（SQL名：seForceDisplay）が［はい］に設定されている任意管理項目）は、レコードから削除できません。

任意管理項目をレコードリストに表示する

任意管理項目は、レコードの詳細画面の**[任意管理項目]**タブページに表示されますが、テーブルのレコードリストに表示することもできます。

レコードリストに任意管理項目を表示するには、レコードリスト内でマウスの右ボタンをクリックしてショートカットメニューを表示し、**[ユーティリティ / リストの設定]**を選択します。リストの設定ウィンドウが開きます。

テーブルに関連する任意管理項目が画面左側の一覧内に表示されます。まず任意管理項目のツリーを展開して、下位レベルを表示します。

次に、表示したい任意管理項目を選択し、ボタンをクリックします。右側の一覧に任意管理項目が追加され、レコードリストにその任意管理項目の列見出しと任意管理項目の値が表示されるようになります。レコードリストから任意管理項目の列を削除するには、ボタンを使います。レコードリストの列の表示順を並べ替えるには、ボタンとボタンを使います。

任意管理項目を継承する

任意管理項目とそのデフォルト値を継承することで、任意管理項目を1つのテーブルから別のテーブルへ自動的にコピーすることができます。任意管理項目はレコードの詳細画面の**[任意管理項目]**タブページに追加され、任意管理項目のデフォルト値もそのレコード用にコピーされます。ここでは、継承可能な任意管理項目の作成方法について説明します。

内容は次のとおりです。

- 継承可能な条件
- 継承可能な任意管理項目を定義する
- 継承設定の手順
- 任意管理項目の継承例

ここで説明する、「ソーステーブル」とは、継承する任意管理項目を含むテーブル、「ターゲットテーブル」とは、任意管理項目の継承先となるテーブルを意味します。

注: 任意管理項目を継承する場合は、その任意管理項目がソーステーブルとターゲットテーブルの両方に関連付けられている必要があります。

継承可能な条件

継承は次の場合にのみ適用されます。

- 「問題のタイプ」テーブルから「ヘルプデスクチケット」テーブルへの継承：ヘルプデスクチケットは問題のタイプに関連する任意管理項目を継承します。

- 「モデル」テーブルから「資産」、「Assets under contract（契約中の資産）」、「研修」、「契約」、および「作業指示」テーブルへの継承：これらのテーブル内のレコードは、モデルに関連する任意管理項目を継承します。
- 「製品」テーブルから「カタログリファレンス」テーブルへの継承

注: これら3つのケースでは、任意管理項目とデフォルト値はデフォルトで継承されます。このデフォルト処理は変更できません。

継承可能な任意管理項目を定義する

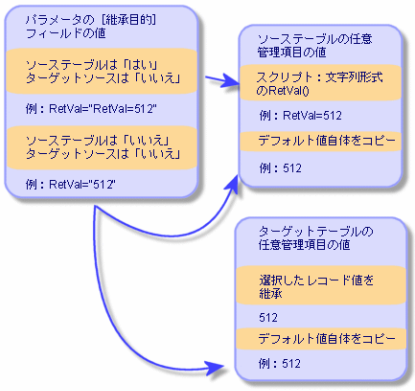
任意管理項目パラメータの詳細画面の**［デフォルト値］**タブページ（SQL名：RetValScript）にある**［継承目的］**（SQL名：bForInheritance）フィールドの設定によって、任意管理項目のデフォルト値のタイプが決まります。

- このフィールドが「はい」に設定されている場合は、任意管理項目のデフォルト値は、ターゲットテーブルのレコードが継承するデフォルト値となり、`RetVal()`関数を含む計算式によって定義されます。この関数は、任意管理項目の継承値を表します。
- このフィールドを「いいえ」に設定した場合は、任意管理項目のデフォルト値は、ターゲットテーブルに継承されません。デフォルト値は、ソーステーブルのレコードの任意管理項目だけに使われます。

注: ソーステーブルから任意管理項目を継承するようにターゲットテーブルを設定するには、**［継承目的］**（SQL名：bForInheritance）フィールドの値をソーステーブルでは「はい」に、ターゲットテーブルでは「いいえ」にする必要があります（「いいえ」は、任意管理項目を継承できる全テーブルで変更不可能なデフォルト値です）。

次の図に、継承処理のプロセスを示します。

ソーステーブルとターゲットテーブル間での任意管理項目の継承



前述の図のように、任意管理項目のデフォルト値の継承は、ソーステーブルとターゲットテーブルの任意管理項目の**［継承目的］**（SQL名：bForInheritance）フィールドによって決まります。

- このフィールドが、ソーステーブルで「はい」、ターゲットテーブルで「いいえ」に設定されている場合は、ターゲットテーブルのレコードの任意管理項目値は、ソーステーブルのレコードに

関連する任意管理項目の`RetVal()`関数によって定義されます。

- ソーステーブルとターゲットテーブルの両方でこのフィールドが「いいえ」に設定されている場合は、任意管理項目のパラメータで定義されているデフォルト値が、任意管理項目値になります。

継承設定の手順

任意管理項目の継承例を示す前に、任意管理項目を効率的に継承する手順を示します。

1. 状況を分析します。ソーステーブルとターゲットテーブルを確認します。
2. 任意管理項目を作成または編集します。
3. ソーステーブルの**[任意管理項目]**タブページに任意管理項目を追加します。
4. このタブページで任意管理項目の値を編集します。
5. ターゲットテーブルで新規レコードを作成して、継承処理が正しく行われることを確認します。

任意管理項目の継承例

ここでは、あるモデルの任意管理項目のデフォルト値を、そのモデルにリンクしているすべての資産に継承する例を示します。

- **手順1 - テーブルを分析する**

  任意管理項目は、モデルのテーブルから資産のテーブルに継承されます。つまり、次のような関係になります。

  - ソーステーブルはモデルのテーブル
  - ターゲットテーブルは資産のテーブル

- **手順2 - 継承可能な任意管理項目を作成する：[継承目的]（SQL名：bForInheritance）**

  [管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目]ナビゲーションメニューを選択して、任意管理項目を作成する画面を表示します。フィールドに次のように入力します。

  継承

フィールド名	フィールドの場所	フィールド値
[タイトル]（SQL名：Title）	任意管理項目の詳細画面	継承
[SQL名]（SQL名： SQLName）	任意管理項目の詳細画面の上部	Inheritance（この例のとおりに入力する必要はありませんが、必須フィールドなので必ず値を入力してください。）
[入力タイプ]	任意管理項目の詳細	**数値**

継承 (続き)

フィールド名	フィールドの場所	フィールド値
（SQL名：seDataType）	画面の［**入力**］タブページ	

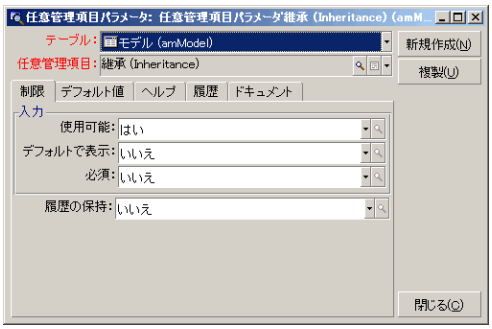
［**作成**］をクリックすると、任意管理項目が作成されます。

ソーステーブル

［**パラメータ**］タブを選択し、パラメータリストの隣にある ボタンをクリックします。その任意管理項目をソーステーブルとターゲットテーブルの両方に関連付け、使用可能になるように指定します。

［**任意管理項目 '継承' にパラメータを追加**］画面に、次の図のように入力します。

ソーステーブル（モデルのテーブル）のパラメータ



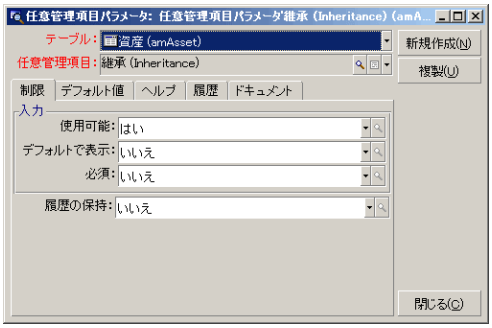
最後に、［**デフォルト値**］タブページの［**継承目的**］プロパティに対して［はい］を選択します。このパラメータを任意管理項目へ追加するには、［**追加**］をクリックします。

ターゲットテーブル

［**パラメータ**］タブを選択し、パラメータリストの隣にある ボタンをクリックします。この任意管理項目をターゲットテーブルに関連付け、使用可能になるよう、Asset Managerに知らせる必要があります。

［**任意管理項目 '継承' にパラメータを追加**］画面に、次の図のように入力します。

ターゲットテーブル（資産のテーブル）のパラメータ

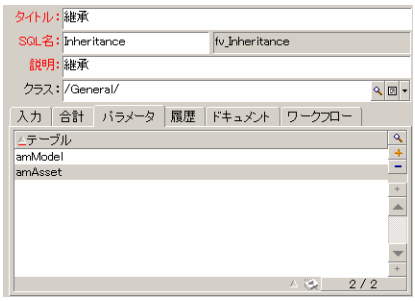


このパラメータを任意管理項目へ追加するには、［**追加**］をクリックします。

確認

任意管理項目のパラメータのリストは次のようになります。

継承する任意管理項目のパラメータ



任意管理項目に加えた変更を確定するには、**［変更］**をクリックします。

- **手順3 - ソーステーブルの［任意管理項目］タブに任意管理項目を追加する**

  ソーステーブルのレコードに任意管理項目を追加する必要があります。どのモデルでも使用できます。この例では、「Deskpro 4000S」というモデルを選択します。モデルのテーブルを表示して、モデルを選択します。このモデルの**［任意管理項目］**タブページの ボタンをクリックし、ツリーから「継承」任意管理項目を選択します。

  この任意管理項目が、プログラム可能フィールドとして**［任意管理項目］**タブページに追加されます。

- **手順4 - 任意管理項目の値を編集する**

  をクリックして、継承フィールドのBASICスクリプトを編集します。このスクリプトによって、`RetVal()`の値（継承値）が決まります。この例では、ブランド「Compaq」の資産が継承する値として数値を使います。値はどのような値でも構いませんが、ここでは「512」を使います。

  スクリプトは次のようになります。

  継承値のBASICスクリプト

  ［変更］ボタンをクリックして変更を確定し、スクリプトを完了します。

- **手順5 - ターゲットテーブルに新しいレコードを作成して、継承処理が正しく行われることをチェックする**

  a. 継承処理をチェックするために、新規資産を作成します。

  b. 新規資産作成用の画面を開くには、**［資産ライフサイクル / インフラストラクチャ管理 / 資産とロット］**メニューを選択するか、またはボタンをクリックします。

  c. **［新規作成］**をクリックして、新規資産を作成します。

d. **［任意管理項目］**タブを選択します。任意管理項目は表示されません。

e. **［モデル］**（SQL名：Model）フィールドに、手順3で任意管理項目を追加したモデル名を入力します。この例が正しく機能することを確認するために、ここでは必ず「Deskpro 4000S」を入力します。

f. **［任意管理項目］**タブを選択します。「継承」任意管理項目が自動的に追加され、手順4で定義した値も継承されます。

ターゲットテーブルに任意管理項目を継承

別のテーブルからレコードを選択して任意管理項目値を入力する

この方法で任意管理項目に値を入力するには、別のテーブルからレコードを選択します。任意管理項目には、そのレコードのフィールドの値が割り当てられます。

次の手順に従って説明します。

1. 事例の内容
2. 任意管理項目を作成する
3. リンクのソーステーブルのフィルタを編集する
4. リンク機能の検証

事例の内容

モデルのテーブルに「リンクテスト」という任意管理項目を作成します。この任意管理項目を資産のテーブルに関連付け、モデルの任意管理項目の値を資産のテーブルに入力できるようにします。

この例では、モデルのテーブルを「ソーステーブル」と呼びます。

任意管理項目を作成する

［管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目］メニューを選択して、任意管理項目を作成する画面を表示します。次のようにフィールドに入力します。

リンクを指定する

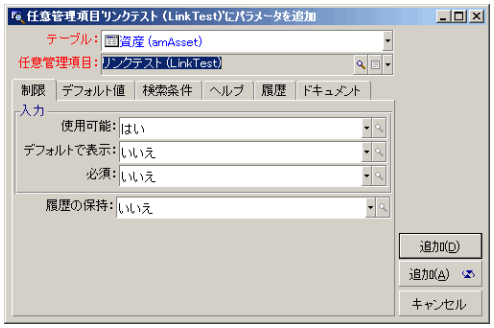
リンクテストのフィールド

フィールド名	フィールドの場所	フィールド値
［タイトル］（SQL名：TextLabel）	任意管理項目の詳細画面	リンクテスト
［名前］（SQL名：Name）	任意管理項目の詳細画面の上部	LinkTest（この例のとおりに入力する必要はありませんが、必須フィールドなので必ず値を入力してください。）
［入力タイプ］（SQL名：seDataType）	任意管理項目の詳細画面の**［入力］**タブページ	**リンク**
［参照テーブル］（SQL名：TargetTableName）	任意管理項目の詳細画面の**［入力］**タブページ	モデルのテーブル

［作成］を押して、任意管理項目を作成します。

［パラメータ］タブを選択し、パラメータリストの隣にある ボタンをクリックします。次の図に示すように値を指定して、この任意管理項目を資産のテーブルに関連付け、資産のテーブルで使用可能になるように設定します。

任意管理項目を資産テーブルに関連付け、使用可能にする（［使用可能］（SQL名：seAvailable）フィールドを「はい」に設定）



リンクのソーステーブルのフィルタを編集する

前の手順では、モデルのテーブルにリンクする任意管理項目を作成し、資産のテーブルで使用できるように定義しました。これで、リンクは「物理的に」作成されました。あとは、このリンクによって転送される情報、つまり、モデルのテーブルから任意管理項目に入力される値を指定するだけです。次の値を選択できます。

- 絶対値。例えば、任意管理項目の値として、特定のタイプのモデルをすべて選択できます。次のように指定すると、「Compaq」ブランドのすべてのモデルが選択されます。

Brand.Name='Compaq'

- 状況依存値。特定のブランドのある資産に関連する全モデルなど、資産のテーブルのフィールドによって変化する値を選択できます。条件を定義するには、`AmDbVal()`関数を使います。
  この関数には、次のパラメータがあります。

  AmDbVal(<リンクのターゲットテーブル>:<ターゲットテーブルのフィールドまたはリンク>)
  次の例では、モデルテーブルの**［ブランド］**（SQL名：Brand）フィールドに依存することを定義しています。

  AmDbVal(amAsset:Model.Brand)

「リンクテスト」任意管理項目のパラメータの詳細画面で**［フィルタ］**タブを選択し、次のように入力します。

Brand.Name = AmDbVal(amAsset:Model.Brand.Name)

注: `AmDbVal()`関数は、詳細画面の現在の値に対応する値を返します。これは、詳細画面の現在の値がデータベースに保存されていない場合にもいえることです。

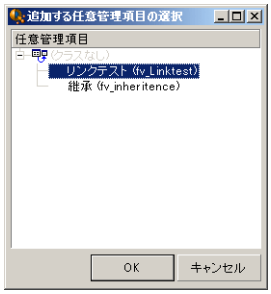
前例では、データベース上ではブランド**DBBrand**のモデル**DBModel**に資産がリンクされていると仮定します。詳細ウィンドウで、ブランド**WindowBrand**のモデル**WindowModel**を選択した後に、**［変更］**ボタンでこの変更を保存しなくても、`AmDbVal()`関数は**WindowBrand**を返します。

注: ［フィルタ条件］（SQL名：LinkFilter）フィールドは、テーブル用に一般的に使われているクエリで、式ビルダを使って作成されています。クエリの作成に使われるフィールドは、すべてリンクのソーステーブルに属します。

リンク機能の検証

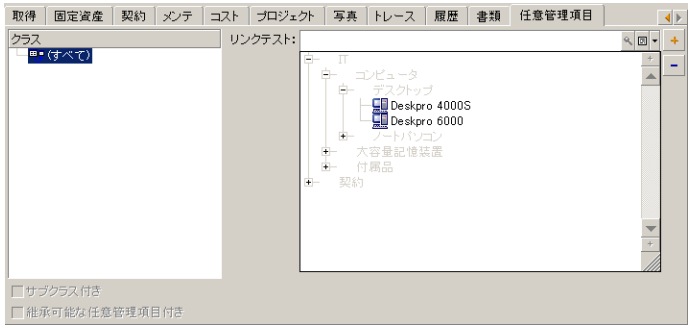
作成したリンクの機能が正しく実行されるかどうかをチェックするために、新しい資産を作成し、その資産に「リンクテスト」任意管理項目を追加します。

1. **［資産ライフサイクル / インフラストラクチャ管理 / 資産］**メニューを選択するか、またはボタンをクリックして、新規資産作成用の画面を開きます。
2. **［新規作成］**をクリックして、新規資産を作成します。
3. **［任意管理項目］**タブを選択します。任意管理項目は表示されません。
4. 資産の**［モデル］**（SQL名：Model）フィールドに値を入力します。
5. ［任意管理項目］タブページのボタンをクリックし、選択画面で「リンクテスト」任意管理項目を選択します。
   任意管理項目ツリーで「リンク」タイプの任意管理項目を選択



新しい資産の詳細画面の**［任意管理項目］**タブページに「リンクテスト」任意管理項目が追加されます。

6. 「リンクテスト」任意管理項目の横の ボタンをクリックします。リストデータに表示されるモデルのテーブルからこのフィールドに入力する値を選択します。次の図に示すように、リストデータにはモデルが表示されます。
リンクが機能するかどうかを検証



この任意管理項目は、モデルテーブルと資産テーブルのリンクとしての機能を果たしています。

フィールド内の任意管理項目の変換

Asset Manager Application Designerでは、データベースの任意管理項目をフィールドまたはリンクに変換できます。変換操作は、**［データベース / 任意管理項目をフィールドに変換する］**で表示されるウィザードで行います。

変換による影響の分析

変換プロセスに進む前に、変換が次の点に及ぼす影響について確認します。

- 任意管理項目のプロパティ、フィールド、リンク。次の表に、これらのプロパティと変換内容の詳細をまとめます。
プロパティの一致

任意管理項目のプロパティ	同等のフィールドまたはリンクのプロパティ
使用可能（*）	無関係プロパティの逆リンク

プロパティの一致 (続き)

任意管理項目のプロパティ	同等のフィールドまたはリンクのプロパティ
デフォルトで表示	対応するものなし
必須	必須
履歴	履歴
デフォルト値	デフォルト
合計	対応するものなし
継承	対応するものなし
リンクタイプ任意管理項目	任意管理項目のリンクへの変換
任意管理項目のヘルプ	フィールドまたはリンクのヘルプ

注意: (*) 使用できない任意管理項目の値は、データベースが更新されると空になります。関連しないフィールドの値はそのままです。

任意管理項目をフィールドに変換すると、その項目固有のプロパティとメカニズムは無効になります。変換を行う前に、ニーズと技術的な制限について確認してください。

- 値を入力するレコードの数量：フィールドに関連付ける値がレコードの大多数（約75%）に影響を及ぼす場合は、任意管理項目よりフィールドを選びます。逆に、その値の影響を受けるフィールドが少ない場合（約25%）、フィールドより任意管理項目を選びます。フィールドと任意管理項目のどちらを選択しても値に変わりはありません。

  注: 上記のパーセントはデータベースのタイプによって異なります。

- パフォーマンスへの潜在的影響：レコード数が非常に多いデータベースの場合、リストへの表示回数が多い情報やアクセス制限を受ける可能性のある情報を保存するときは、任意管理項目を使用しないことをお勧めします。

変換例

事前分析が済んだら、変換を開始できます。下の例では、**リンク**タイプの**作業単位**と呼ばれる任意管理項目をリンクに変換します。

この機能は、専門分野データ処理時にAsset Managerで使用できます。これらのデータがまだインポートされていない場合は、次のように作成してください（**[管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目]** ナビゲーションメニュー）。

フィールド	値
タイトル	作業単位
SQL名	WorkUnit
説明	作業単位
入力タイプ	リンク
参照テーブル	製品（amCatProduct）

[パラメータ] タブの ボタンをクリックして、次のようにフィールドに入力します。

[パラメータ] タブ

フィールド	値
テーブル	部署と従業員（amEmplDept）

使用可能	（スクリプト）
	If [bDepartment] = 0 Then
	RetVal = 1
	Else
	RetVal = 0
	End If

デフォルトで表示	（スクリプト）
	If [bDepartment] = 0 Then
	Dim lRc As Long
	Dim hq As Long
	hq = AmQueryCreate()
	lRc = AmQueryExec(hq, "SELECT EmplGroups FROM amEmplDept
	WHERE lEmplDeptId = " & [lEmplDeptId] & " AND
	EmplGroups.bAssignable = 1")
	If lRc = 0 Then
	'The employee belongs to an assignable group
	RetVal = 1
	Else
	RetVal = 0
	End If
	Else
	RetVal = 0
	End If

この任意管理項目をフィールドに変換するには：

1. Asset Manager Application Designerを起動し、データベースに接続します（ **[ファイル / 開く / 既存のデータベースを開く]** ）。
2. **[データベース / 任意管理項目をフィールドに変換する]** メニューを開きます。

3. ウィザードの最初のページで、表示されたリストから任意管理項目を選択します。

   注: ウィザードで**［テーブルの任意管理項目のみ］**を選択すると、テーブルに応じて任意管理項目を選択し、ソートすることができます。

   ［次へ］をクリックします。
4. 変換時に作成されるオブジェクトのSQL名が表示されます。この名前は変更できますが、テーブル内で名前が重複しないように気をつけてください（ウィザードで自動的にテストが行われます）。
   ［次へ］をクリックします。
5. 次のページに変換の概要を示します。ウィザードには任意管理項目を含むテーブルごとの概要ページが表示されます。ページを移動するには、**［次へ］**および**［前へ］**ボタンを使用します。

   注: 任意管理項目の**使用可能**スクリプトは、フィールドまたはリンクの**無関係**スクリプトに変換されます。このような2つのスクリプトはまったく正反対のため、変換を行うと次のような逆向きの線が追加されます。

   RetVal = Not RetVal

   ［次へ］をクリックします。
6. ウィザードの最後のページでは、変換ログのターゲットフォルダを選択します。**［完了］**ボタンをクリックして、操作を開始します。

次の変換用の操作が行われます。

- 新規フィールドまたはリンクがデータベースに作成されます。
- 任意管理項目の各プロパティがフィールドまたはリンクの対応するプロパティに変換されます。任意管理項目の特定のプロパティ（合計、継承など）は失われます。フィールドタイプは次の一致結果をもとに、任意管理項目タイプから推測されます。

タイプの一致

任意管理項目タイプ	変換により作成されるオブジェクト	タイプ	ユーザタイプ
テキスト	フィールド	テキスト	デフォルト
数値	フィールド	倍精度	デフォルト
ブール	フィールド	整数（16ビット）	システムリストデータ
日付	フィールド	日付	デフォルト
リストデータ	フィールド	テキスト	カスタムリストデータ
期間	フィールド	整数（32ビット）	デフォルト

タイプの一致 (続き)

任意管理項目タイプ	変換により作成されるオブジェクト	タイプ	ユーザタイプ
日付+時刻	フィールド	日付と時刻	デフォルト
リンク	1-Nリンク（任意管理項目が関連付けられたテーブル内の1-1リンク半分とリンクのターゲットテーブル内の1-Nリンク半分から構成）	普通（ターゲットレコードが破棄された場合、リンクの外部キーを0にリセット）	普通

- 任意管理項目用に存在する値がこれ以上ない場合は、項目と同様に値も消去されます。

任意管理項目が以前に関連付けられたテーブル（この例ではSQL名**WorkUnit**の新規リンクが作成された**amEmplDept**テーブル）内で、新規フィールドまたはリンクが使用可能になりました。詳細画面にフィールドまたはリンクを表示するには、既存の画面に手動で追加する必要があります。

第6章: レコードに関連付けられたドキュメント

- ドキュメントの定義 37
- レコードに関連するドキュメントの管理 37
- アクションを使ってドキュメントを開く 40

ドキュメントの定義

ドキュメントとは、Asset Managerデータベースのレコードに関連付けられる外部ファイルのことです。

Asset Managerの大部分のテーブルをドキュメントへ関連付けることができます。

Asset Managerデータベースのレコードへドキュメントを関連付ける方法は以下のとおりです。

- ドキュメントを保存せずに、ドキュメントの完全パスを保存して関連付ける場合。
  ドキュメントは、同一のアクセスパスで外部ドキュメントを開くユーザのみにアクセス可能です。
- ドキュメントをデータベースへ保存する場合。

適切なAsset Managerユーザ権限を有するAsset Managerの全ユーザは、ドキュメントへアクセスできます。

書類への完全パスを指定すると、アクションはそのファイルを動的に使用できます。例えば、ファイルに関連付けられているアプリケーションを起動するアクションを使って、ファイルを開くことができます。

レコードに関連するドキュメントの管理

レコードの詳細画面の**［ドキュメント］**タブには、このレコードに関連するドキュメントが含まれています。各ドキュメントは、サブタブの**［リファレンス］**枠内で説明されています。ドキュメントを追加、複製、削除するには、サブタブ上で右クリックし、ショートカットメニューから**［リンクレコードの追加］**または**［リンクの削除］**を選択します。

サブタブの数は、このレコードに関連付けられたドキュメントの数に対応します。

Asset Managerデータベースに保存されないドキュメント
Asset Managerユーザ全員がファイルを見つけられるよう、ネットワーク上でのファイルの完全パス名を使用してください。

［ファイル］（SQL名：FileName）フィールドではファイルの完全パスを指定できます。

ファイルを検索するには、▣をクリックします。

> **ヒント:** 指定したファイルは、**「実行可能ファイルタイプ」**のアクションに使用されます。アクションは**［ファイル］**フィールドを参照する必要があります。

Asset Managerデータベースに保存されるドキュメント

> **注意:** データベースに多数のドキュメントを保存する場合は、データベースのサイズに注意してください。

Windowsクライアント

ドキュメントをデータベースに格納するには：

1. **［インポート］**をクリックします。
2. 格納するファイルを選択します。
3. **［変更］**をクリックします。

ドキュメントを表示するには：

1. **［実行］**をクリックします。

ドキュメントの内容をコピーするには：

1. **［エクスポート］**をクリックします。
2. 作成するファイルの完全パスを指定します。
3. **［保存］**をクリックします。

ドキュメントの内容をAsset Managerデータベースから削除するには：

1. **［切断］**をクリックします。
2. **［変更］**をクリックします。

Webクライアント

ドキュメントをデータベースに格納するには：

1. **［ファイルの選択］**をクリックします。
2. 格納するファイルを選択します。
3. **［開く］**をクリックします。
4. **［添付］**をクリックします。

ドキュメントを表示するには：

1. **［ビュー］**をクリックします。

   > **注:** 次のファイル拡張子のドキュメントのみ表示できます。

- JPG
- JPEG
- PNG
- GIF
- PDF
- TXT

ドキュメントの内容をダウンロードするには：

1. **［ダウンロード］**をクリックします。

ドキュメントの内容をAsset Managerデータベースから削除するには：

1. **［切断］**をクリックします。
2. **［保存］**をクリックします。

データベース内のドキュメントの変更

Windowsクライアント

1. ドキュメントが添付されているレコードの詳細を表示します。
2. **［ドキュメント］**タブを表示します。
3. 変更するドキュメントの詳細を表示します。
4. **［実行］**をクリックします。
5. **「ドキュメントに対して行う変更をデータベースに統合しますか?」**というメッセージが表示されたら、**［はい］**をクリックします。
6. ドキュメントを変更します。
7. ドキュメントに加えた変更を保存します。
8. ドキュメントを閉じます。
9. ドキュメントが添付されているレコードの**［ドキュメント］**タブに戻ります。
10. **［変更］**をクリックします。

Webクライアント

1. ドキュメントが添付されているレコードの詳細を表示します。
2. **［ドキュメント］**タブを表示します。
3. 変更するドキュメントの詳細を表示します。
4. **［ダウンロード］**をクリックします。
5. ドキュメントをローカルデスク（Asset Managerデータベースの外）に保存します。
6. 保存したドキュメントの編集および変更を行います。

7. ドキュメントに加えた変更を保存します。
8. ドキュメントを閉じます。
9. ドキュメントが添付されているレコードの**［ドキュメント］**タブに戻ります。
10. **［切断］**をクリックします。
11. **［ファイルの選択］**をクリックして、変更したドキュメントを選択します。
12. **［開く］**をクリックします。
13. **［添付］**をクリックします。
14. **［OK］**をクリックします。

完全ファイル名フィールド

すべてのドキュメントを添付ファイルに関連付けることをお勧めします。**［完全ファイル名］**フィールドを必須にすると、これらの手順に従うことができます。

> **注:** WindowsクライアントまたはApplication Designerを使用すると、このフィールドを設定できます。フィールドは、WindowsクライアントとWebクライアントの両方で有効になります。

1. **［ドキュメント］**タブで、**［完全ファイル名］**フィールドを右クリックします。
2. **［オブジェクトの設定...］**をクリックします。
3. **［必須］**ドロップダウンリストから**［はい］**を選択します。
4. **［OK］**をクリックします。

［完全ファイル名］フィールドの設定後は、ドキュメントを添付ファイルなしで保存しようとすると、次のエラーメッセージが返されます。

フィールド '完全ファイル名 (FileName)'（テーブル 'ドキュメント (amDocument)' 内）は、空白にできません。

アクションを使ってドキュメントを開く

ドキュメントの完全パスを指定すると、このファイルをアクションを使って動的に使用することができます。

適切なアクションを作成する

この例では、ドキュメントの**［ファイル］**（SQL名：ActionFile）フィールドで指定したファイルを開くことができるアクションを作成します。ファイルを開くプログラムは、Windowsのファイルマネージャによってファイル名の拡張子に関連付けられたプログラムです。

［ツール / アクション / 編集］メニューを使って、アクションのリストを表示します。新しいアクションを作成します。特に次のフィールドに値を入力します。

アクションの作成

フィールド	値
［名前］（SQL名：Name）	名前
［コンテキスト］（SQL名：ContextTable）	**ドキュメント**（SQL名：**amDocument**）
［タイプ］（SQL名：seActionType）	**実行可能ファイル**
実行可能ファイルまたはDDEタブ	
［ファイル］（SQL名：ActionFile）	<ファイル名>

ファイルを開くアクションを作成する

1. レコード（例えば資産）の詳細を表示します。
2. **［ドキュメント］**タブを選択します。
3. **［ドキュメント］**タブページのサブタブでドキュメントに関する情報を入力します。
4. **［ファイル］**（SQL名：FileName）フィールドに、プログラムと関連付けられている拡張子が付いたファイルのパスを入力します。
5. ドキュメントのサブタブページ内のいずれかのフィールドにカーソルを置きます。
6. マウスの右ボタンをクリックして、ショートカットメニューを表示します。**［アクション］**コマンドを選択すると、ドキュメントのテーブルに関連するアクションのリストが表示されます。作成したアクションを選択します。

注: リンク関連のアクションは、**［ツール / アクション］**メニューまたは ボタンでは起動できません。

第7章: バーコードによる棚卸

- 概要 42
- バーコードフォントのインストール 42
- バーコードカタログに含めるレコードの識別 43
- バーコードカタログの生成 44
- 用語解説 44
- CODE-39仕様 45

概要

企業の資産をすばやく確実に棚卸し、その移動をモニタする方法のひとつに、バーコードリーダの使用があります。

バーコードリーダは、各資産のID（通常、資産に付加されたバーコードを使用）と、印刷されたバーコードカタログに含まれる資産プロパティの一部（場所、ユーザ、ブランド、モデル）を記録します。

Asset Managerでは、バーコードカタログをRTFフォーマットで生成できます。

バーコードによる完全な棚卸を行うには、次の手順を実行します。

- 適切なバーコードリーダを選択し、入手します。
- Asset Managerデータベースに棚卸したデータをインポートし、関連付けます（Asset ManagerまたはHP Connect-Itインポートモジュールを使用）。

バーコードフォントのインストール

バーコードカタログは、Asset Managerに入力した英数字を「CODE-39」にコード変換できる特殊なTrue Typeフォントを使用します。Asset Managerは**「C39T30Lfz」**という名前のこのフォントを、Windowsのコントロールパネルで表示できる他のWindowsフォントと一緒に自動的にインストールします。このフォントを使ってラベルの作成や印刷を行います。

フォントのインストール方法については、Windowsの説明書を参照してください。

バーコードカタログに含めるレコードの識別

バーコードカタログをRTFフォーマットで作成する前に、次のテーブルに入力する必要があります。次の手順で実行することを推奨します。

場所

1. 場所を表示します（**[組織管理 / 組織 / 場所]** ナビゲーションメニュー）。
2. バーコードカタログに追加する場所を作成または変更します。
   具体的には、**[名前]**（Name）、**[バーコード]**（BarCode）フィールドに入力します。

部署と従業員

1. 部署と従業員を表示します（**[組織管理 / 組織 / 部署と従業員]** ナビゲーションメニュー）。
2. バーコードカタログに追加する部署と従業員を作成または変更します。
   具体的には、**[名前]**（Name）、**[バーコード]**（BarCode）フィールドに入力します。

ブランド

1. ブランドを表示します（**[ポートフォリオ管理 / カタログ / ブランド]**）。
2. バーコードカタログに追加するブランドを作成または変更します。
   具体的には、**[名前]**（Name）、**[バーコード]**（BarCode）フィールドに入力します。
   [バーコードのカタログに含める]（bInvent）オプションを選択し、バーコードカタログにブランドをリスト表示します。

モデル

1. モデルを表示します（**[ポートフォリオ管理 / 資産構成 / モデル]** ナビゲーションメニュー）。
2. バーコードカタログに追加するモデルを作成または変更します。
   具体的には、**[名前]**（Name）、**[バーコード]**（BarCode）フィールドに入力します。
   [バーコードのカタログに含める]（bInvent）オプションを選択し、バーコードカタログにモデルをリスト表示します。

任意管理項目

1. 任意管理項目を表示します（**[管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目]** ナビゲーションメニュー）。
2. 各任意管理項目について、**[バーコードのカタログに含める]**（bInvent）オプションの選択を解除します。任意管理項目は、このバージョンのAsset Managerではバーコードカタログに含める必要はありません。

リストデータ「amStatus」

1. リストデータを表示します（**[管理 / システム / リストデータ]**）。
2. リストデータの値リストを定義します。
   このリストデータは各資産の詳細で、**[ステータス]**（Status）フィールドを入力するのに使用します。

バーコードカタログの生成

1. バーコードカタログ生成画面を表示します（**[ポートフォリオ管理 / バーコードによる棚卸]** メニュー）。
2. バーコードカタログのRTFファイルを生成するフォルダを入力します（**[棚卸用フォルダ]** フィールド）。
3. **[カタログをRTF形式で棚卸用フォルダ内に作成]** ボタンを押します。

棚卸用フォルダに**「cat.rtf」**という名前のファイルが作成されます。このファイルはほとんどのワードプロセッサで読み取ることができる標準**「RTF」**（Rich Text Format）フォーマットで、バーコードカタログの印刷に使用されます。

cat.rtfファイルには、あらかじめレイアウトオプションとして、フォント、サイズ、スタイル、タブ、ページ、およびセクション区切りが含まれています。このファイルはほとんどのワードプロセッサで認識が可能な標準RTFフォーマットを持ち、棚卸技術者が入力する棚卸カタログのベースとして使用されます。

読み取り精度を高めるためのヒントをいくつか示します。

- バーコードのサイズは変更しないでください。C39T30Lfzという名前の特殊フォント（バーコードモジュールに付属）が使用されていますが、これは30ポイントでの使用に最適化されています。この推奨サイズを10%以上変えると、バーコードの読み取りに支障をきたします。
- カタログは、高品質のレーザプリンタに印刷してください。トナーカートリッジが満量で、給紙機構に汚れがなく、筋が残らないことを確認します。
- 読み取りやすくし、エラーを防ぐには、バーコード間のスペースを約2 cm（1インチの3/4）空けます。

注: cat.rtfと同じフォルダに、**car.dat**という別のファイルが作成されますが、**car.dat**は以後は不要です。そのままフォルダに入れておいても、削除しても構いません。

用語解説

バーコードカタログ

ユーザ企業の資産を示す値に関連する、バーコードカタログに似た比較的サイズの大きいドキュメン

ト。これらの値を読めば、棚卸中に各資産を直接識別することができる。

同義語
棚卸カタログ

バーコードリーダ

バーコードの読み取りに使用する光学式デバイス。

同義語
リーダ、スキャナ、ハンドセット、データ入力ターミナル。

CODE-39

セルフチェック英数字バーコード。印刷、読み取りともに良好で、使いやすいため、最も広く普及しているバーコード。

CODE-39仕様

このセクションでは、CODE-39タイプのバーコードの全仕様を示します。

バーコードの構造

CODE-39は、十進数、英数文字（大文字のみ）次の特殊記号をエンコードする英数字コーディングシステムです。

<スペース> -. * $ / % +

注: このバーコードタイプでエンコードできる文字数は、理論的には無制限です。

注意: *文字は、バーコードにエンコードしたシーケンスのフレームとして使用されるので、シーケンスの一部として使用することはできません。

エンコードされた文字は、5つの黒いバーと4つのスペース、合計9つのエレメントで構成されます。この9つのエレメントのうち3つ（2つの黒いバーと1つのスペース）は他よりも太い線です。このバーコードタイプは、この特徴に基づいて名前が付けられています。太エレメントは「1」、細エレメントは「0」で表されます。

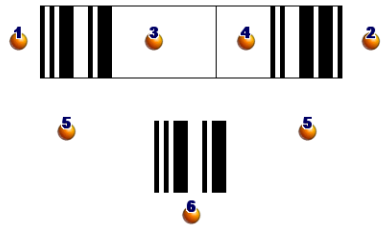
バーコードリーダで太細エレメントを見分けるには、この2タイプのエレメントのサイズ比率が必要となります。太エレメントのサイズは、印刷に使用する解像度に応じて、細エレメントの最低2倍以上にします。通常使用されされる比率は、1：3です。印刷する際に、同じタイプのエレメントはすべて同じサイズにする必要があります。例えば、細バーのサイズは細スペースと同じでなければなりません。

CODE-39は不連続タイプのバーコードです。エンコードされた各文字は、情報を含まないスペース（スペース文字と呼ばれます）で区切られます。通常スペース文字のサイズは、細エレメントのサイズと同じです。

CODE-39は構造的にもコードがチェックされますが、オプションとしてチェック文字を使用することも可能です。

コード構造

次の図に、CODE-39バーコードの標準構造を示します。



1 : 開始マージン。

2 : 終了マージン。

3 : エンコードされた文字。

4 : オプションのチェック文字。

5 : エンコードされた"*"文字。バーコードの開始と終了用に予約。

6 : エンコードされた文字の例。

文字セット

次の表に、使用可能な文字、各文字に関連するバイナリワード、各文字に使用されるオプションのチェック文字をリスト表示します。

ASCII文字	関連バイナリワード	制御文字値
0	000110100	0
1	100100001	1
2	001100001	2
3	101100000	3
4	000110001	4
5	100110000	5
6	001110000	6
7	000100101	7
8	100100100	8

ASCII文字	関連バイナリワード	制御文字値
9	001100100	9
A	100001001	10
B	001001001	11
C	101001000	12
D	000011001	13
E	100011000	14
F	001011000	15
G	000001101	16
H	100001100	17
I	001001100	18
J	000011100	19
K	100000011	20
L	001000011	21
M	101000010	22
N	000010011	23
O	100010010	24
P	001010010	25
Q	000000111	26
R	100000110	27
S	001000110	28
T	000010110	29
U	110000001	30
V	011000001	31
W	111000000	32
X	010010001	33

ASCII文字	関連バイナリワード	制御文字値
Y	110010000	34
Z	011010000	35
-	010000101	36
.	110000100	37
スペース	011000100	38
*	010010100	なし
$	010101000	39
/	010100010	40
+	010001010	41
%	000101010	42

制御文字

CODE-39バーコードのチェック文字は、文字チェックの合計値を43で除算した剰余で決まります。この処理結果は0から42間での値となるので、それで文字テーブルを使用して、チェック文字を決めることができます。例：

文字	C	O	D	E		3	9
制御値	12	24	13	14	38	3	9
値の合計	113						
Modulo 43	27						
制御文字	R						
符号化シーケンス	CODE 39R						

コードの寸法

CODE-39バーコードの印刷時の長さは、次の計算式で決まります。

長さ = N*16x + 31x + (16x) + M1 + M2

計算式の説明：

- M1およびM2は、バーコードの開始および終了の余白を表します。それらのサイズは、この寸法が0.25インチを超える場合、0.25インチ（6 mm）から細い要素のサイズの10倍までにする必要があります。
- Nはエンコードされた文字数を表します。
- xは細エレメントのサイズを表します。バーコードリーダによる読み取り率を高めるには、xを0.075インチ（0.19 mm）以上にします。
- 16xは、スペース文字を含むエンコードされた文字のサイズを表します（太細比率3を使用：太エレメントが細エレメントの3倍のサイズ）。
- 31xは、シーケンス中の開始および終了文字（*）のサイズを表します。この値には、開始文字とシーケンスの最初の文字の間のスペース文字も含まれます。
- （16x）は、オプションのチェック文字のサイズを表します。

太細比率が3でない場合（ここでは、Rが使用する比率を示す）、計算式は次のようになります。

長さ = N(3Rx+7x) + 6Rx + 13x +(3Rx+7x) + M1 + M2

CODE-39バーコードの印刷時の高さは0.25インチ（6mm）、またはシンボルの（マージンを除く）寸法を優先する場合は、その長さの0.15倍となります。

第8章: IDの生成

- 概要 50
- ID生成に使用されるテーブル 50
- ID生成の機構 51

概要

Asset Managerデータベース内のほとんどすべてのテーブルには、これらのテーブル内のあらゆる単一レコードに固有のグローバルIDを格納する主キーがあります。例外は、 **[LastId]** テーブルと **[independentLastId]** テーブルだけです。Asset Managerは、 **[LastId]** テーブルと **[independentLastId]** テーブルを使用して、いわゆるIDシードを格納および保守します。各IDシードは、32個のグローバルID用の領域を確保します。

注: [LastId] テーブルおよび **[independentLastId]** テーブルの主キー（ID）は、グローバルIDシステムのものとは無関係です。

この章では、Asset ManagerがIDシードを使用してグローバルIDを生成および配賦する方法について説明します。

ID生成に使用されるテーブル

グローバルIDの生成では、特に次のテーブルが関与します。

- amWfInstance
- amLoginSlot
- LastId
- independentLastId

[amWfInstance] または **[amLoginSlot]** 以外のテーブルでレコードを作成すると、Asset Managerは、 **[LastId]** テーブル内で使用可能なIDシードを検索します。既存のIDシードが使用不可の場合、Asset Managerは **[LastId]** テーブル内に新しいIDシードを作成します。同様に、 **[amWfInstance]** テーブルまたは **[amLoginSlot]** テーブル内でレコードを作成すると、Asset Managerは、 **[independentLastId]** テーブル内で使用可能なIDシードを検索します。既存のIDシードが使用不可の場合、Asset Managerは **[independentLastId]** テーブル内に新しいIDシードを作成します。

注: [amWfInstance] テーブルと **[amLoginSlot]** テーブルには、Asset Manager内のすべてのテーブルの中でも最も頻繁に使用される処理が組み込まれています。パフォーマンス上の理由か

ら、これら2つのテーブルに指定されたIDシードは、独立したテーブル（**［independentLastId］**）に格納されます。**［LastId］**テーブルと**［independentLastId］**テーブルのデータ構造はまったく同じです。

ID生成の機構

［LastId］と**［independentLastId］**の両方のテーブルには、IDシードを管理するための2つの列、**［lInUse］**と**［lRemain］**があります。

- **［lInUse］**列は、IDシードが使用中かどうかを識別するために使用されます。IDシードがアクティブな接続に割り当てられている場合、**［lInUse］**の値は1に設定されます。このIDシードは、その他の接続と共有できません。
- **［lRemain］**列は、このIDシード内の使用可能なIDの数を識別するために使用されます。この列は、ユーザがログアウトしたときにのみ更新されます。このため、接続がアクティブである限り、この列の値は変更されません。

データベースに接続してレコードを作成する場合、Asset Managerは、特定の規則に従って、**［LastId］**テーブルまたは**［independentLastId］**テーブル内のこの接続用の使用可能なシードIDを取得します。

1. Asset Managerは、次の条件を満たすIDシードレコードを検索します。
   - **［lInUse］**列の値が0。
   - **［lRemain］**列の値が0より大きい。
2. Asset Managerは、最も小さい「プライベート」ID（**［LastId］**テーブルまたは**［independentLastId］**テーブルの主キー）を持つIDシードを接続に割り当てます。

   注: **［LastId］**テーブルおよび**［independentLastId］**テーブルの主キー（「プライベート」ID）は、グローバルIDシステムのものとは無関係です。
3. IDシードが使用不可の場合、Asset Managerは、新しいIDシードレコードを作成して、接続に割り当てます。
4. 使用中のIDシードが格納容量に到達し（32個すべてのグローバルIDが使用済み）、接続が依然アクティブな場合、Asset Managerは手順1 ~ 手順3を繰り返して、接続用の新しいIDシードを見つけます。

   注: ユーザがログアウトするまでIDシードはリリースされないため、古いIDシードレコードの**［lInUse］**列と**［lRemain］**列の値は更新されません。

ユーザがログアウトすると、Asset Managerは、**［lInUse］**列の値を0に設定し、**［lRemain］**列を更新することで、接続に割り当てられているIDシードをリリースします。

ドキュメントのフィードバックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on 主要テーブル (Asset Manager 9.50)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、ovdoc-ITSM@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。